

水球 三浦先生頑張ってください！



「三浦先生頑張ってください」とエールを送る水球部員（白鷗女子高校で）

白鷗女子高の教え子

やったらシュートを決められるか考えてプレーできる」と話す。三浦選手は、高校で始めた水球初心者にも一目見ただけで改善点を指摘。順調に上達しているという。

西山さんは「五輪選手に教わるなんてなかなかない。自分たちも8月に全国大会があるので、先生と一緒に頑張りたい」と意気込む。

温井由真さん(3年)は、三浦選手と同じ山形出身。中学時代から憧れていて、「こんなキーパーになりたい」と神奈川に来た。入部後も、「指示が的確だし手足も長い。まさに鉄壁」とますます尊敬している。

三浦選手は、五輪が近づき練習に顔を出せなくなっただけから、「調子どう？」などとメッセージをくれたという。温井さんは「自分のことで大変なはずなのに、練習の動画を送ると、アドバイスをくれる」と感謝する。

「三浦先生らしい『鉄壁』を見せてください」と活躍を願った。

水球女子の日本代表は1日、ロシア・オリンピック委員会(ROC)と予選ラウンド最終戦を戦う。日本はこれまでの3試合で全敗と厳しい結果が続いているが、白鷗女子高校(横浜市鶴見区)水球部の顧問でもあるゴールキーパーの三浦里佳子選手(31)は懸命の守りで、教え子たちの見本となっている。

山形県出身の三浦選手は、日体大を卒業した2012年に同校に保健体育の

教師として着任。所属する日体クラブに通いながら、部の顧問を務めている。出勤前に1人で朝練を行い、髪がぬれたまま授業の打ち合わせに参加。部活動では生徒に交ざって練習する。キャプテンの西山百花さん(3年)は、三浦選手について「クールでかっこいいけど、リュックを開けっ放しにして意外に天然」とにっこり。三浦選手が守るゴールは、なかなか割れないが「だからこそ、どう